

人が輝きまちがときめく
ふれあい交流都市

広報

のぼりべつ

2001/4/1

No.606

3月4日(日)、カールス温泉サンライバスキー場で「カールス温泉冬まつり」が開かれ、多くの家族連れが「雪中みかん拾い」や「チューブレース大会」「オロフレ雪原宝探し」など、冬ならではのイベントを楽しみました。

50組の親子が参加した「親子ボブスレー大会」(写真)では、激しく横転する親子の姿も見られましたが、子どもたちにとってはそれも楽しいハプニング。のぼりべつの冬を満喫した子どもたちの笑顔と歓声が会場からあふれていました。



特集 夢の育つまち

平成13年度市政執行方針・教育行政執行方針・予算・事業

特集

平成13年度市政執行方針・教育行政執行方針・予算・事業

平成13年度の予算案などを審議する『平成13年第1回登別市議会定例会』が3月2日(金)に開会し、上野市長が今年のまちづくりの指針である『市政執行方針』を、青木教育長が登別市の教育の在り方について示す『教育行政執行方針』を発表しました。

市政執行方針の中で上野市長は、「地方分権の進展により、地域特性を生かした自治体の総合力が問われています。厳しい環境の中にあっても、市民みなさんと知恵を出し合い、力を結集してまちづくりに取り組むことで、21世紀を充実した時代にする事ができると確信しています」と述べ、4期13年貫いてきた基本理念『開かれた市政』『共に担いあう市政』『市民本位の市政』を、市民総意のもと、これまで以上に進めていく決意を表しました。

今号では、新年度の市政執行方針と教育行政執行方針の要旨、予算、主な事業をお知らせします。



登別市教育長 青木 宏 司



登別市長 上野 晃

夢の育つまち

夢の育つまち①
平成13年度

市政執行方針(要旨)

市民参画のもと、21世紀を担う子どもたちが未来に夢をつなげる豊かで住みよいまちづくり

はじめに

◆新世紀を迎えた今日、私たちを取り巻く環境は猛烈なスピードで変化しています。本格的な少子・高齢社会の到来や情報技術の目覚ましい進展は、私たちの暮らしを大きく変えることとなってきました。私たちは、これらの潮流を的確に把握するとともに、新たな時代に向かって登別市を21世紀への確かな発展軌道に乗せるための準備を急がなければなりません。

◆戦後50数年を経て、経済的に一定の豊かさを達成したといわれる中、日本古来の文化ともいえる共同体意識や近隣コミュニティのつながりが薄れ、個人主義的な主張と価値観が増大する傾向が危惧されています。

◆21世紀の社会を切りひらく確かな知性と豊かな感性をもつ子どもたちをはぐくみ、若者が希望をもって果敢に夢に挑戦できる社会をつくるためには、さまざまな課題を乗り越え、学校教育はもとより地域社会や家庭が連携してそれぞれの機能を一層高め、役割を果たしていかなければなりません。

◆子どもたちが未来に夢をつなぐことができるような、豊かで住みよいまち

づくりのため、全力を尽くして市政の推進に努めます。

基本的な考え方

- ① 市民参画
- ② 行政改革への取り組み
- ③ 財政運営

基本的な考え方①

市民参画

市民参画によるまちづくりを進めるため、市民がより必要とする情報を発信

◆ これまでも『市民と共に進めるまちづくり』を基本理念として、市政のあらゆる場に市民のみなさんが参画できる機会と場の提供に努めてきました。

◆ 21世紀におけるまちづくりは、文字通り『広範な市民参画』がキーワードになるものと考えます。

◆ 本市では「自分たちのまちは自分たちの手で」を合い言葉に、福祉や教育、スポーツ、文化など、各般のボランティア活動が活発に展開され、老若男女を問わず自主的なまちづくり活動に参

加えられる多くのみなさんがいます。

◆昨年は、市制施行30周年と西暦2000年が重なる記念の年として、多くの市民団体が中心となり、一年を通じて各種のイベントが開催されました。

このような動きが、新たな力となり地域の活力の源泉になるものと確信しています。これらの活動がさらに幅と厚みを増すようその環境づくりに努めるとともに、情報機器の活用などについて支援します。

◆市民参画による「まちづくり」を進めていくためには、市政情報はもとより、さまざまなまちづくり情報が開示され共有されていることが基本です。

◆市は、機会あることに財政状況や行おうとする事業・プロジェクト、直面している課題などについて、広報紙などを通じて市民のみなさんにお知らせするよう努めてきましたが、ややもすると市民のみなさんが望んでいる情報よりは、むしろ行政がお知らせしたい情報を発信する傾向にありました。

◆今後は、市民がより必要とする情報の発信を旨とし、本年は、まず市政情報の根幹である平成13年度予算を基本に、市がどのような事業に取り組んでいるのかを総合的にお知らせする「まちづくりカタログ」を作成し、広報別冊版として各戸にお届けするとともにホームページに掲載します。

◆先般、ホームページに掲載した登別版行政評価システムの基礎となる「事務事業評価調査」についても、市民のみなさんが今後の政策形成過程への参画を図る上で基礎的な情報として活用

できるよう努めます。

◆広聴活動については、市民と行政の協働社会の形成に向け、市民のみなさんとひざを交えた対話を積極的に行うほか、新たな広聴ツールとして期待できるインターネットを活用し、電子掲示板や電子会議室を通して市民が自由に意見交換できる場や機会の充実に努めます。

基本的な考え方②

行政改革への取り組み

社会経済情勢の変化に合わせた適切な負担のもとで、効率的なサービス提供の在り方を検討

◆長引く景気低迷の影響を受け、市の財政は、税収入の伸び悩みに加え、累次にわたる景気対策のための特別減税や公共投資により、極めて厳しい運営を余儀なくされています。

◆一方、少子・高齢化をはじめ、高度情報化・ポータルレス化など、社会経済情勢の著しい変化を背景に、市民の行政に対するニーズが多様化しながら増大しています。

◆このような状況のもと、行政は、真に市民の立場に立つとともに適切な市民負担のもとで効率的なサービスの提供に努めなければなりません。そのためにも、市民のみなさんの参画と協力のもと、継続的・反復的に行政改革に取り組むことが必要です。

◆行政改革にあたっては、行政運営全般にわたる構造的な改革として取り組む必要があります。平成8年度を初年

度とする現行の行政改革基本方針は、

おおよそ5年を目標としていることから、現在その点検作業を進めています。

◆新たな実施計画については、平成11年に策定した行政構造改革の基本方向を踏まえ、平成13年度の早い時期に策定したいと考えていますが、これまでの行政改革の検討経過を踏まえ、より多くの市民参画が得られるよう努めます。

◆懸案の行政評価システムの導入については、事務事業評価作業の検証のもと、市民の目線を繰り込めるシステムとなるよう検討します。

◆ワンストップサービス(※1)を目指す総合窓口の開設については、早期に開設できるようハードとソフトの検討を進めます。

◆職員的能力開発については、職員の意識改革と併せて、政策形成能力や法令立案能力など、分権時代を担う職員に必要とされる資質の向上を目指し、研修体系に基づく基本研修をより効果的に行うとともに、実務に直結する専門研修の充実強化に努めます。

◆職員の業務成果や勤務成績が適切に評価される仕組みづくりについては、管理職を対象に勤務評価制度を導入し、試行を行ってききましたが、本年度中に本格実施に移行します。

◆市立幼稚園の在り方については、将来の幼稚園教育の安定と充実、あるいは学校教育を含めた生涯学習環境の充実を考えると、幼稚園教育を民間にゆだねていくことは避けられないこととと考えています。市立幼稚園の廃園方針については市民みなさんの理解が得ら

れるよう、今後、なお努力します。

※1 ワンストップサービス：1カ所で1度処理すれば、他の官庁や公的機関への処理が自動的に行われること。

基本的な考え方③

財政運営

財源の重点的かつ効率的な配分に努め、長期的な視野に立って財政を運営

◆財政については、歳入面では市税である固定資産税や都市計画税に若干の増収が見込めるものの、市民税については景気の低迷により所得の伸びが期待できないことから、前年比0.5割の減になる見込みです。普通交付税については、国が示した概算の伸び率4.9割の減と国勢調査人口の減少による影響から、平成12年度当初決定額に対し6.0割の減となりました。

◆一方、歳出面では義務的経費である公債費・扶助費の増加や老朽化した公共施設の維持補修費、各特別会計への繰出金が増加するなど財政需要はますます膨らんでいます。

◆平成13年度の予算編成にあたっては、経常的経費全般にわたり、徹底した節減合理化に努めるとともに、補助金・助成金をはじめとした事務事業の見直しや地方債制度の適切な運用と基金の活用を図り、少子・高齢化対策や教育予算の充実に配慮するなど、財源の重点的かつ効率的な配分に努めました。

この結果、一般会計の予算規模は、210億円、前年比1.4割の増となっています。

平成13年度の主な事業の予算額

色文字の事業内容は、13ページで詳しく紹介しています。

【一般会計】

議会費	
◎O A化推進経費	112万円
総務費	
◎国際交流推進事業費	201万円
◎中学生海外派遣事業費	411万円
◎幌別テレビジョン中継局放送設備更新事業費	2,700万円
◎いきいき推進事業補助金	200万円
◎鬼を活用したまちづくり事業補助金	230万円
◎まちづくりカタログ発行経費	544万円
◎(仮称)地域情報センター維持管理経費	890万円
◎登別温泉小・中学校ネットワーク構築事業費	1億円
◎住民基本台帳ネットワークシステム構築事業費	3,180万円
民生費	
◎町内会運営助成金	3,117万円
◎街路灯設置事業補助金	990万円
◎地域福祉活動促進事業補助金	856万円
◎福祉マップ作成経費	125万円
◎地域総合整備資金貸付金(三愛病院増築分)	2億円
◎老人ホームヘルプサービス経費	178万円
◎老人デイサービス経費	418万円
◎心身障害者ホームヘルプサービス経費	703万円
◎心身障害者デイサービス経費	2,662万円
◎在宅介護支援センター運営経費	2,244万円
◎配食サービス経費	868万円
◎家族介護慰労経費	50万円
◎仕事と育児両立支援事業費	1,050万円
◎交通安全施設整備事業費《照明灯設置事業費、中央26号線歩道改良事業費、登別富浦路線歩道整備事業費、美園57号線歩道新設事業費など》	7,830万円
衛生費	
◎母と子の健康づくり事業費	964万円
◎室蘭・登別保健センター大規模改修事業負担金	930万円
◎老人保健事業費	5,618万円
◎ごみ減量化推進等経費	4,356万円
◎クリンクルセンター運営管理経費	4億6,390万円
◎廃棄物管理型最終処分場運営管理経費	5,080万円
◎塵芥収集運搬業務委託料	1億2,923万円
農林水産業費	
◎来馬第1地区道営農免農道整備事業負担金	3,375万円
◎西札内地区道営農免農道整備事業負担金	180万円
◎鉾山地区農道整備特別対策事業負担金	2,000万円
◎道営草地整備改良事業負担金	542万円
◎民有林造林推進事業補助金	162万円
◎森林G I S整備事業費	5,000万円
商工費	
◎中小企業相談事業補助金	900万円
◎商店街近代化融資積立金	8,000万円
◎金融緊急対策信用保証料補給金	200万円
◎中小企業特別融資積立金	3億円
◎住宅改良促進特別融資積立金	1億5,000万円
◎観光客誘致促進事業費	941万円
◎観光振興特別対策事業補助金	6,000万円
◎北海道国際航空株式会社出資金	500万円
◎市営カルルス温泉スキー場整備事業費	7,750万円

しかし、今後の財政運営は一層厳しさを増すことが予想されますので、長期的な視点に立ち、健全な財政運営に努めます。

◆登別マリノパークについては、これまで安定的な経営を図るため、新しいパートナーを探すとともに、経営改善の条件整備に努めてきました。今般、加森観光株式会社や関係者の協力を得られることとなりましたので、マリノパークの財務内容を抜本的に改善し、経営刷新を図りました。一時的に市の財政負担を伴いますが、市民生活に直接影響を及ぼすことのないよう努める

とともに、マリノパークが今後安定的な経営を持続して設置目的を全うし、市の負担が実質的に解消されるよう誘客などの後方支援を図ります。

主要施策

- ① 情報化の推進
- ② 産業の振興と活力あるまちづくり
- ③ さわやかな環境を創造するまちづくり
- ④ 思いやりとふれあいのあるまちづくり
- ⑤ 安全で快適に暮らせるまちづくり

主要施策①

情報化の推進

公共施設などのネットワーク化や地域情報センターの設置など、情報通信基盤の整備推進

◆政府は「高度情報通信社会」の形成を国家的戦略として打ち出し、地方にも電子自治体の実現を求めています。しかし、我が国の情報通信基盤の整備は、現在、国の直轄事業として行う状況になく、民間事業者においても市場動向を勘案のうえ、コストと収益のバランスに基づいた投資が行われています。こうしたことを背景に、地域間において情報を利用するためのサービス格差が徐々に広まりつつあります。

このため、地方自治体が主体的に都市基盤整備の一環として情報通信基盤の整備を行う必要性に迫られてきました。

◆市は、今般、平成12年度の国の補正予算を活用し、平成13年度事業と合わせて情報通信基盤の整備に取り組むこととしましたが、具体的には市内全域へ光ファイバー(※2)を敷設し、小中学校全校や市役所などの各公共施設、日本工学院北海道専門学校、商工会議所など、29施設を接続してネットワーク化を図るとともに、登別中央ショッピングセンター・アーニスの一部を活用し、「地域情報センター」を設置する構想です。

◆この情報センターは、幼児から高齢者まですべての市民の利用を考え、さ

平成13年度の主な事業の予算額

色文字の事業内容は、13ページでくわしく紹介しています。

労働費	
◎シルバー人材センター補助金	1,100万円
◎勤労者特別融資積立金	1億1,460万円
◎雇用対策救済事業費	3,901万円
◎緊急地域雇用対策事業費	752万円
土木費	
◎市道改良・舗装事業費《中央町地区街区整備事業費、カルルス路線改良事業費、石山通り改良事業費、登別富浦路線改良事業費、中央通り改良事業費など》	5億5,280万円
◎ロードヒーティング整備事業費	3,500万円
◎GIS基盤整備事業費	100万円
◎市道舗装排水整備事業費	4億円
◎まちづくりアクションプラン策定経費	920万円
◎若山地区湿原保全経費	200万円
◎公園整備事業費《めばえ公園整備事業費、若草中央公園水洗化事業費、川上公園多目的広場整備事業費、亀田記念公園整備事業費》	4,850万円
◎街路事業費《東通改良事業費》	2,600万円
◎公営住宅再生マスタープラン策定経費	403万円
◎市営住宅《桜木団地》建替事業費	3億2,453万円
消防費	
◎救急救命士養成経費	628万円
◎高度救急資機材購入費	591万円
◎消火栓新設事業費	900万円
◎大容量防火戸新設事業費	3,134万円
◎サイレン遠隔吹鳴装置設置事業費	6,624万円
教育費	
◎総合的な学習活動研究推進事業費	600万円
◎小学校校舎等整備事業費《鷺別小学校校舎整備事業費、鷺別小学校プール整備事業費、幌別小学校駐車場整備事業費、登別温泉小学校校舎等改修事業費、若草小学校大規模改造調査費、登別小学校周辺整備事業費》	6,500万円
◎中学校校舎等整備事業費《鷺別中学校校舎整備事業費、鷺別中学校周辺整備事業費》	3,200万円
◎小学校暖房設備整備事業費《幌別西小学校暖房設備整備事業費》	4,800万円
◎人と自然のふれあい拠点整備事業費	4億2,225万円
◎情報通信技術講習事業費	2,394万円
◎新市民プール建設事業調査費	200万円
【学校給食事業特別会計】	
◎食器取替事業費	1,502万円
◎食器自動供給装置設置事業費	375万円
◎牛乳保冷庫購入費	168万円
【公共下水道事業特別会計】	
◎公共下水道事業費	12億6,687万円
◎終末処理場建設費	10億3,220万円
【介護保険特別会計】	
◎保険給付費	19億7,180万円
【平成12年度の予算を繰り越して行う主な事業】	
◎地域イントラネット基盤整備事業費	4億5,357万円
◎学習活動支援設備整備事業費	1,930万円
◎市営住宅《幌別東団地》景観改善事業費	2億3,840万円
◎西陵中学校校舎大規模改造事業費	1億9,546万円

まざまな情報を受発信できる機能を有し、単に情報技術（IT）を体験するだけではなく利用するための実践的な施設を考えています。

例えば、児童を対象とした画像を用いた情報技術の体験スペースや、各種ボランティア団体などの活動を支援するスペースを設けるほか、学生や個人がシステム開発などベンチャービジネスへの挑戦ができる「SOHO」（※3）ブースも設置したいと考えています。光ファイバーの持つ高速通信機能により、近い将来には保健・医療・福祉・教育・防災など、幅広い分野での活用を図ります。

◆『地理情報システム（GIS）』（※4）については、新年度から都市

計画と税務部門において運用を開始するとともに、新たに森林地域などの地図情報を加え、統合型GISの本格的運用に向けた取り組みを進めます。

◆平成15年の稼動を予定している国や都道府県、全国の市町村を結ぶ「住民基本台帳ネットワークシステム」の構築作業に着手します。

※2 光ファイバー：光を送るための極めて細い線状のガラス。光通信や医学用内視鏡などに用いられる。

※3 SOHO：個人の在宅ビジネス（スモールオフィス、ホームオフィス）形式。分散化された単位オフィスなど、小規模で在宅作業場のようなオフィス。

※4 地理情報システム（GIS）：電子地図を基本に、地理的な位置の情報や空間の情報を属性資料と合わせて統合的に処理、分析、表示する機器の仕組み。防災計画や都市計画など、まちづくりの検討の役に

立つ。

主要施策②

産業の振興と活力あるまちづくり

中小企業の経営安定を図るとともに、自然を生かした体験型・参加型観光の基盤整備を推進

◆市内経済については、先行きの見えない景気動向の中で、中小企業は依然として厳しい経営を強いられています。

◆市は、こうした経済情勢の中で、地域中小企業の経営安定を図るため、経営相談や指導事業の推進と各種融資制度の利用促進に努めます。

また、昨年新設した『住宅改良促進



▲3月に終了したJR幌別駅前広場の整備

特別融資制度』についても、積極的なPRに努め、利用拡大を図ります。

◆中央町地区の商店街近代化事業につ

◆航空運賃の低料金化に挑戦する、『北海道国際航空（エア・ドゥ）』に対し、引き続き支援します。

◆農林水産業については、地域農業の振興を図るため、生産基盤や生産環境の整備を推進するとともに、札内高原館の適切な利用を図り、酪農畜産品の加工研究開発を進め、観光産業との連携を目指します。

◆漁業の振興については、地域の特性に応じた栽培漁業推進を図るため、沿岸漁場整備事業などの促進に努めます。

◆登別漁港の整備については、『登別漁港周辺整備基本計画』を国の次期『漁港整備長期計画』へ組み入れ、第3種漁港へ種別変更してその促進を図るとともに、鷺別漁港については、漂砂対策や静穏対策など安全性の向上が図られるよう努めます。

◆基幹産業である観光については、昨年は有珠山噴火の影響や、航空運賃に関する規制緩和がもたらした実質的な団体航空運賃の値上げにより、観光客の入込みが4月・5月期には前年の約半分に落ち込むなど大きなダメージを受けました。しかし、これまでのさまざまな集客キャンペーンが功を奏し、前年の8割程度まで回復しましたが、市は、引き続き冬季キャンペーンを支援するとともに、海外の観光客の誘致にも積極的に取り組んでいます。

◆市民のホスピタリティーの一層の向上を図るとともに、恵まれた自然を生かした体験型・参加型観光の基盤整備を推進し、他の観光地との差別化に努めます。

◆航空運賃の低料金化に挑戦する、『北海道国際航空（エア・ドゥ）』に対し、引き続き支援します。

◆農林水産業については、地域農業の振興を図るため、生産基盤や生産環境の整備を推進するとともに、札内高原館の適切な利用を図り、酪農畜産品の加工研究開発を進め、観光産業との連携を目指します。

◆漁業の振興については、地域の特性に応じた栽培漁業推進を図るため、沿岸漁場整備事業などの促進に努めます。

◆登別漁港の整備については、『登別漁港周辺整備基本計画』を国の次期『漁港整備長期計画』へ組み入れ、第3種漁港へ種別変更してその促進を図るとともに、鷺別漁港については、漂砂対策や静穏対策など安全性の向上が図られるよう努めます。

主要施策③

さわやかな環境を創造するまちづくり

市民のみなさんの意見を反映した環境基本計画を策定し、循環型社会の構築を目指す

◆循環型社会の構築を目指す取り組みについては、昨年制定した『環境基本条例』に基づき、市の具体的な施策について示す『環境基本計画』を市民のみなさんの意見を反映し、平成13年度中に策定します。

◆新ごみ処理施設については、今後とも市民のみなさんの理解と協力のもと、適切な管理運営に努めます。また、市



▲資源循環型社会の構築を目指す『クリンクルセンター』

主要施策④
思いやりとふれあいのあるまちづくり

だれもが健やかに生きがいをもつて暮らすことができるよう、きめ細かな保健福祉対策を推進

◆母親の育児不安や孤立化の解消を図るため、子育て支援センターの充実や母子保健対策など、子育て支援事業の推進に努めます。

◆女性の社会進出による保育ニーズの多様化に対処するため、栄町・幌別東両保育所でも延長保育を実施します。

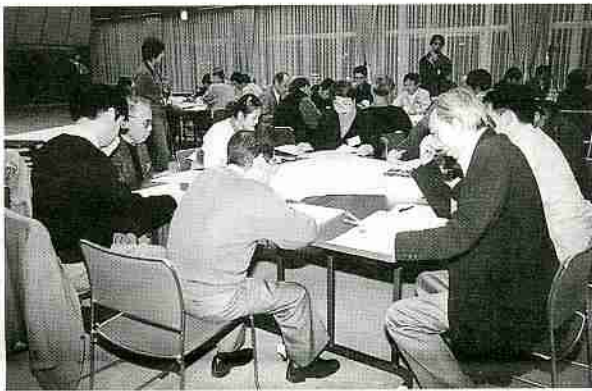
◆児童虐待防止対策については、今後とも早期発見、早期対応を図るため、児童相談所を中心とした関係機関との連携を強化し、情報の共有や多角的な視点からの検討など積極的な取り組みを進めます。

◆高齢社会への対応については、介護を社会全体で支えていく新しい仕組み『介護保険制度』が、昨年4月にスタートしましたが、制度の理解が不十分という実態もありますので、今後とも広報紙などを通じて周知に努めます。

◆低所得者の支援について制度の改正を引き続き国に求めていくとともに、新たに、家族を在宅介護する人に慰労金を支給する『家族介護慰労事業』や、介護サービスの利用実態を把握して利用者の日常的な不満、または疑問にこたえる『介護サービス訪問相談事業』を実施します。

◆社会福祉協議会が実施している通所介護デイサービスについては、市民ニ

- ◆ ーズにこたえるため、平日の介護時間を延長するとともに土曜日も実施することとなりました。今後も社会福祉協会の事業運営に適切な支援をします。
- ◆ 『医療法人千寿会三愛病院』が老人性痴呆ほう病棟の設置や、精神科デイケア機能の整備を進めていますので、地域総合整備資金の活用を支援します。
- ◆ 懸案の『ケアハウス』（※5）については、民間事業者において設置に向けた取り組みの動きがありますので、市として可能な限りの支援を行います。
- ◆ 障害をもつ方への対応については、ノーマライゼーション（※6）の理念に基づき、障害をもつ方や高齢者など、さまざまなハンディキャップをもつ方たちの行動範囲を広げ、充実した社会生活の実現を図るため、障害をもつ方や高齢者、ボランティア関係者などのみなさんの参画を得て、『福祉マップ』を作成します。
- ◆ 心身に障害をもつ方のスポーツ振興の一環として、『第23回全道ハンディキャップスキー大会』を北海道ハンディキャップスキー協会や室蘭市と共同で本市において開催します。
- ◆ 市民の健康対策については、新たに胃がんの個別検診や前立腺がん検診を実施するなど、健康診査業務の充実を図ります。
- ◆ 平成12年度中に『男女共同参画社会の実現に向けた指針』を作成し、今後は、国の『男女共同参画基本計画』や北海道の計画を踏まえ、本市のプラン策定に向けて準備を進めます。



▲市民会議の開催など、市民の参画を得ながら作成する「まちづくりアクションプラン」

- ◆ 国際交流については、外国の人々との交流を通じ、個性豊かな国際的視野をもった人材を育成するため、中学生の海外派遣事業と自治体職員協力交流事業を引き続き実施します。
- ※5 ケアハウス：身体機能が低下し、独立して生活するには不安のある高齢者が、自立した生活を継続できるように工夫され、必要な介護が行われる集合住宅。
- ※6 ノーマライゼーション：障害をもつ人や高齢者などが、あるがままの姿で他の人々と同等の権利を享受できるようにするという考え方。

**主要施策⑤
安全で快適に暮らせるまちづくり**

- ◆ 高齢者や障害をもつ方も安心して暮らすことができる住みやすく災害に強いまちづくりの推進
- ◆ まちづくりの指針となる『まちづくりアクションプラン』については、平成12年度にまとめる全体構想をより具体化するため、平成13年度は地域別構想の素案づくりを進めます。作成にあたっては、市民会議を開催するとともに広報紙やインターネットを活用するなど、市民の幅広い参画を得ながら進めます。
- ◆ 道路の整備については、北海道が施行する登別温泉バイパスの第1工区が本年4月開通の運びとなります。今後は第2工区の整備促進に努めます。
- ◆ 国道36号線登別東町地区交差点改良など、広域幹線道路網の整備促進に努めるとともに、市内の幹線道路や日常生活に身近な生活道路については、歩道の段差解消など、高齢者や障害をもつ方にやさしい道路づくりに努めます。
- ◆ 交通安全対策については、新たな交通安全計画を策定し、推進に努めるとともに、歩道の整備やロードヒーティングなどの整備を引き続き実施します。
- ◆ 上下水道事業については、浄水場の整備や老朽配水管の整備を引き続き推進するとともに、低水圧の解消や非常時における貯水量確保のため、新たな配水池の実施設計を行います。
- ◆ 水道料金については、平成9年の改定以来、給水人口の減少や経済情勢の変化によって、供給単価が給水原価を下回る状況が続き、平成12年度の収支は赤字の見込みとなりました。今後も、施設整備などに多額の投資を必要とするため、料金については本年7月より引き上げることとしました。市民のみなさんご理解をお願いします。
- ◆ 公共下水道事業については、平成12年度末で64%の普及率となる見込みです。引き続き、栄町・若草町地区に加え、登別町・美園町地区の面整備を推進するとともに、新たに登別地区の整備に向けた実施設計に着手します。
- ◆ 公営住宅については、市営桜木団地の3期工事に着手するとともに、市営幌別東団地8棟の屋根ふき替えや外壁塗装・植栽など、景観改善事業を実施します。また、道営登別東町団地の建設促進を図ります。
- ◆ 防災対策については、災害時に市民相互が助け合い、支え合えるよう地域における自主防災組織の育成に努めるとともに、本年は登別地区で総合防災訓練を実施し、地域住民・団体の防災意識の高揚を図ります。
- ◆ 平成13年度より2カ年計画で市内各地域にサイレン遠隔吹鳴装置を設置し、災害時に消防職員や消防団員などの迅速な召集を行い、初動体制を確立するとともに、地域住民に対して正確な災害情報の伝達に努めます。
- ◆ 消防力の強化については、災害時の水利確保のため大容量防火井戸や消火栓の整備を進めます。
- ◆ 救命率の向上を図るため、これまで7人の救急救命士を養成してきましたが、引き続き養成を行うとともに登別温泉支所に配置の救急車に高度救急資機材を整備し、増加する救急業務への適切・スピーディーな対応に努めます。

夢の育つまち②
平成13年度

豊かな個性と人間性をはぐくむまちを目指し、
活力ある生涯学習の環境づくりを進めるとともに、
教育の諸課題に適切に対応

教育行政執行方針(要旨)

はじまり

◆新しい時代への教育改革や情報社会の進展などに柔軟に対応しながら、2002年度から完全実施される新学習指導要領への移行措置を本格的に実施していくとともに、平成12年4月の学校教育法施行規則の一部改正を受け、登別市学校管理規則の一部改正を行い「職員会議は、校長が主宰すること」を明確に位置付けました。

また、同時に「学校評議員」を導入し、開かれた学校運営を実施します。

◆昨年、市民各層で構成する『登別の教育を考える市民会議』から、市が誘致している中高一貫教育『中等教育学校』が登別市にふさわしいものとなるよう、更には、建設計画の自然体験宿泊施設「ネイチャーセンター」が有効に活用されるよう、その在り方についての『まとめ』が提出されました。

◆今後、中等教育学校については、市民会議の『まとめ』を尊重し、誘致活動に反映させ、積極的に働きかけます。ネイチャーセンターの有効活用についても施設運営計画の中に反映させます。

◆次代を担う子どもたちに「生きる

力」をはぐくむことをねらいとして、

地域社会・学校・家庭が一体となつて

教育改革を果敢に実行していくためには、

教育に関する専門性が求められますので、

一部組織機構を見直し、新たに「指導室」を設けて取り組みます。

◆今後も、国の教育改革の動向を見極めて、登別市総合計画を受けた「登別市生涯学習推進基本構想」や、「第2次登別市社会教育中期計画」を基本とし、「豊かな個性と人間性を育むまち」を目指し、生き生きとした生涯学習の環境づくりを進めるとともに、今日の教育の諸課題に適切に対応するため、諸般の施策を推進します。

重点事項

① 学校教育

② 社会教育

学校教育

重点事項①

「生きる力」「自ら学び、自ら考える力」をはぐくみ、個性を生かす教育を充実

学校教育

◆各学校においては、2002年度から完全実施される新学習指導要領の示すところにより、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態、児童生徒の心身の発達段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程を編成し、実施することが大切です。

◆昨年度は、地域の教育活動の資料『21世紀に生かせ みんなの知恵』を基に移行措置として取り組んだ『総合的な学習の時間』において、大きな成果を得ることができましたので、今年度においても、子どもたち一人ひとりが「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむために、更に内容を充実し、実施されるよう支援します。

◆教職員の研修については、これまで、北海道教育委員会、北海道教育研究所などで実施される研修などに積極的に派遣してきましたが、本年度においても、引き続き研修に派遣するとともに、登別市教育研究会とも連携を密にし、計画的な研修が行われるよう努めます。

◆教育実践活動については、昨年度は、2校が教育実践研究指定を受け、3校が公開研究会を開催し、教職員が一人丸となって推進してきた研究内容は、胆振管内をはじめ、全道的にも大きな評価を得ました。

本年度は、継続2校、新規6校が、胆振教育局、胆振教育研究所、登別市の指定を受けており、各学校の研修・

研究活動が積極的に進められ、一層その成果の上ることを期待しています。

◆西陵中学校の「地域教育資源と連携した環境教育」の実践活動が高く評価され、「北海道教育実践表彰」を受賞されたことは、誠に意義深いことです。

◆心の教育の充実については、国民的な課題であり「教育改革国民会議」が示した道徳教育に関する提案の動向を見定めながら取り組むとともに、体験的・実践的な活動を積極的に取り入れた道徳教育の充実や、部活動の振興に努めます。

◆命の大切さや他人を思いやる心、物事の是非、善悪など、人間として最低限必要な倫理感や正義感をしっかりと身に付けさせるための「心のノート」の有効活用を努めます。

◆学校週5日制については、平成4年度以来、地域での連帯感をはぐくむことや世代間交流などを促進するため、6中学校区ごとに学校週5日制運営委員会を設置し、それぞれの地域の特色を生かした活動が展開され、多大な成果を収める中で、10年の節目を迎えることになりました。

◆2002年度からは、学校週5日制が完全実施されることから、運営組織については、地域に根差した活動を充実させ、「地域社会」「学校」「家庭」が一体となった運営体制を確立させるため、「学校週5日制」を『子ども地域交流プラザ』に名称変更するとともに、学校・地域の特性を生かした特色ある活動を創造し、子どもたちの豊かな発想に基づいたさまざまな



▲幌別中学校区学校週5日制運営委員会による「ふれあい農園」での田植え

な体験活動や文化、スポーツ、レクリエーション、社会奉仕活動などが、積極的に展開されるよう支援します。

◆小・中学校の特殊学級については、新たに1学級を新設します。これにより、市内の特殊学級は、9校12学級となります。

◆児童生徒の学校生活に支障のないよう介助員を配置し、教育活動の充実に努めます。

◆市内中学校における中学校体育連盟などの活動において、その経費の捻出に苦慮しているのが現状ですので、保護者などの負担軽減を図るため、遠征費の一部について支援します。

生徒指導

◆本市においては、特に、これまでも心配されていた「いじめ」や「不登校」は年々減少傾向にあり、『学級崩壊』などの実態はないものの、学校・家庭・地域社会が一体となって、情報交流を深め、未然防止に積極的に取り組んでいます。

組んでいます。

◆各学校においては、常に、生徒指導の基本に立ち返って、教職員が一丸となって生徒指導体制を確立し、毅然とした態度で援助指導していくことが必要です。

◆今後も、学校、関係機関などの連携を密にし、生徒指導の徹底が図られるよう努めます。

◆「教育相談電話」や「いじめ専用ダイヤル」「来室相談」などについては、引き続き実施します。

◆不登校児童生徒への対応については、これまでも、学校訪問、中学校区地区別懇談会、父母懇談会などを開催し、当該児童生徒の実情把握に努めるとともに、体験学習や宿泊交流学習などを実施し、再登校に努めてきました。

◆本年度も「ふれあいサポート懇談会」を通じ、内容を見直し、更に充実し実施します。

◆相談技術などを高めるため、教員や養護教諭を対象にした研修会や臨床心理士を招いて、当該児童生徒の保護者

を対象にした懇談会なども内容を充実し、引き続き実施します。

◆本年度も、拠点校方式により、西陵中学校にスクールカウンセラーを配置するとともに、「心の教室相談員」については、引き続き配置します。

◆生徒指導担当教諭の配置については、引き続き北海道教育委員会に要望します。

◆「入浴体験事業」「外国青年招致事業」「中学生海外派遣事業」「白石市



▲これまでに63人の中学生が派遣された『中学生海外派遣事業』

との交流事業 などについても、引き続き実施します。

小・中学校へのコンピュータ導入

◆市内小・中学校へのコンピュータ導入については、これまでも、機器操作に慣れ親しむことを目的に実施してき

ましたが、平成12年度から平成17年度までの6年間の計画で「ミレニアム・プロジェクト」が開始され、学校教育における情報化は、大きく変わろうとしています。

◆21世紀を担う子どもたちが、情報化社会を生き抜くために、先進的な高速回線による学校間や地域などのネットワークを構築し、子どもたちが「いつでも」「どこからでも」自由に活用

ができ、学校間・家庭・地域などとの共同学習や国際交流、電子メールやホームページによる情報収集・発信を行い、情報活用能力や自ら学ぶ力の育成推進を図ることが大きな目的です。

◆特に、学校間交流支援システムとしては、テレビ会議システムや電子メールを活用した学校間の交流授業を行い、広域的な交流教育環境の場を提供することで、授業やクラブ活動など、児童・生徒の情報リテラシー(※7)の向上を図ることが期待できますので、この基盤整備に努めます。

◆教職員を対象にした研修会などを開催し、指導技術の向上に努めます。

※7 情報リテラシー：コンピュータやソフトウェア、各種情報を利用するための能力。

◆今日、児童生徒の読書離れが指摘されていますが、社会の情報化が急速に進展する中で、児童生徒自らが必要な情報を収集・選択し活用する能力が、ますます必要とされることから、更に、読書活動の啓もうを促進するとともに、

学校図書

◆今日、児童生徒の読書離れが指摘されていますが、社会の情報化が急速に進展する中で、児童生徒自らが必要な情報を収集・選択し活用する能力が、ますます必要とされることから、更に、読書活動の啓もうを促進するとともに、

学校図書の実用性に努めます。

健康・安全指導

◆各学校が、あらゆる機会と場において、体力づくりを進めるとともに、児童生徒が自ら病気やけがから身を守る習慣を身に付けるよう指導の徹底を図ります。

◆特に、続発している交通事故については、これからも、関係機関の協力を得て「交通安全教室」を開催するなど、一層、意識の高揚と交通事故の防止に努めます。

◆市内教職員の自主的な組織である「登別市教職員交通安全クラブ」の活動を引き続き支援します。

幼稚園教育

◆幼児期は、生涯にわたる人間形成の



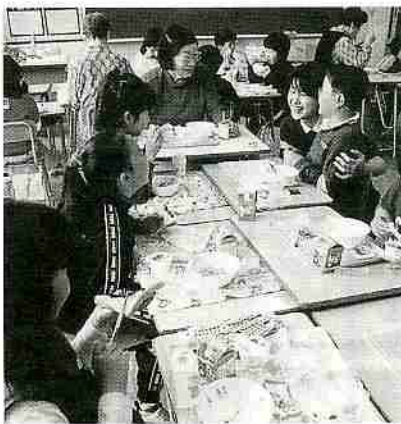
▲2月13日から4日間、市内4地区で行われた『市立幼稚園についての説明会』

基礎を培う時期であり、友達との遊びや交流を通して、情操や創造性、社会性を身に付けていく大切な時期です。きめ細かな対応ができる教育課程の編成・実施に努めるよう指導します。

◆市立幼稚園の廃園については、その具体的な方針を固め、理解をいただくための説明会を行ってまいりましたが、十分理解を得る状況とはなっておりませんので、理解と協力が得られるよう更に努めます。

学校給食

◆多様化する児童生徒のし好に配慮しながら、栄養のバランスを確保し、安全で信頼される楽しい給食になるよう、一層、給食内容の実用性に努めます。



◆従来から使用していましたがポリカーボネート製食器については、更新時期にあたりますので、より安全な食器に更新します。

◆本年度は「給食用牛乳保冷庫」の新設と「食器自動供給装置」の取り替えを実施します。

◆給食費については、国の学校給食用米穀や学校給食用牛乳の購入の補助金の措置が廃止されたことと、給食内容の一層の実用性を図るため、小・中学校それぞれ月額100円を値上げします。

施設整備

◆市内小・中学校は、いずれも老朽化の課題を抱えています。今後とも、教育活動に支障のないよう計画的に整備します。

◆本年度、幌別西小学校の暖房設備を個別暖房に切り替えます。

◆鶯別小学校と鶯別中学校の屋根外壁改修、鶯別小学校のプール槽さび防止や鉄骨塗装、温水シャワーの整備を行います。

◆若草小学校校舎の大規模改造事業を進めるため、耐震診断を行います。

◆教職員住宅についても、計画的に整備します。

重点事項②

社会教育

生活・自然体験などの学習機会を充実するとともに、情報通信技術を活用した学習機会を拡大

社会教育

◆これまで社会教育が担ってきた役割を更に充実発展させ、進展しつづける生涯学習社会の実現を目指して策定した「生涯学習推進基本構想」の理念に

基づき、「第2次社会教育中期計画」に沿って、あらゆる行政分野が連携し、各種施策を積極的に推進するとともに、今日の課題や社会の変化に即した多様なニーズに対応した学習機会の拡充に努めます。

◆市民一人ひとりの学習を支援するため、指導者や講師、団体・サークルなどを紹介する「生涯学習人材バンク」を構成し、その有効活用を推進します。

◆老人大学と婦人短期大学については、



▲平成12年度は54人が卒業した「登別市老人大学」

今日の課題や健康などに関することを中心テーマとして要望を取り入れながら学習の提供を行ってまいりましたが、学び得た知識や、豊かな体験などが世代間交流などに生かされるよう、学習内容について、学習者のニーズを正確に把握し、その充実を図ります。

◆家庭教育学級については、基本的な生活習慣や生活能力、自制心や自立心、

豊かな情操、他人に対する思いやり、善悪の判断などの基本的倫理感などの向上を目指す観点から、これまで、文部省が発行した乳幼児を持つ親向けの「家庭教育手帳」や小・中学生をもつ親向けの「家庭教育ノート」を配布するとともに、「家庭教育ビデオ」などを活用し、実施してきました。

◆今後も、適切な情報や親子が共同体験をする場などを提供するとともに、家庭において、基本的な生活習慣を身に付けさせる学習が深められるように努めます。

青少年教育

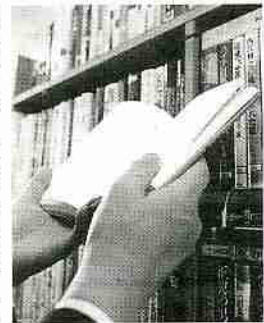
◆青少年が明るく健やかに育つためには、家庭・学校・地域社会のそれぞれの教育機能を發揮し、一体となった取り組みが必要です。文化、スポーツ、ボランティア活動などを中心とした社会参加活動などの学習機会の拡充に努めます。

◆青少年の補導については、これまでも、巡回専用車4台を配備するなど、地域の方々の協力のもとに、街頭補導の強化と環境の浄化対策に取り組んできました。

◆今後も家庭・学校・地域社会・行政機関などの連携を密にし、適切な対策を講じて、青少年の健全育成に努めます。

◆変質者・不審者の発生については、増加傾向にありますので、今後も地域との情報交流を密にし、不測の事態に対応します。

図書館



◆これまでも、市民の多様化・高度化するニーズに対応するため、コンピュータによる蔵書データ入力や道立図書館をはじめ、近隣市町村との連携を密にし、生涯学習の情報拠点として、利用しやすい図書館運営に努めてきました。

◆本年度は、コンピュータによる図書館システムを確立し、貸し出し、返却などについても迅速に対応します。



◆インターネットによる情報提供に、積極的に取り組みます。

◆新図書館建設については、これまで検討した結果を基に、昨年、新図書館建設を考えるシンポジウムを開催し、利用者の意見をお聞きしましたが、今後、このような機会を重ねて、具

的な設置構想の参考とするための準備を進めます。

社会教育施設

◆ネイチャーセンターの建設は、「人と自然が共生するふれあい拠点施設」として位置付け、自然環境の賢明な利用の理念にそって、自然を損なうことのないよう特段の配慮をしながら、自然環境教育や豊かな自然資源を活用し、自然とのふれあいを推進するものです。

◆「ネイチャーセンターに関する特別委員会」での議論を踏まえ、「登別の教育を考える市民会議」での「まとめ」や専門的な立場の方々の意見をお聞きしました。本年度は、建設工事に着手します。

◆また、来春のオーブンに向け、当該施設が有効に活用されるよう、鉾山地区の自然環境調査をはじめ、施設運営



▲昨年11月25日に行われた文化・スポーツ振興財団主催の「第4回親子文化祭」での「おもしろ工作コーナー」

計画の策定、各種自然環境教育の事業企画、展示物の企画・制作などを実施します。

◆市民プールについては、昨年、クリンクルセンターの余熱利用の可能性や、建設地の調査などを行いました。

◆本年度も、引き続き、市民会議やフォーラム、アンケート調査を通じ、市民の意見をお聞きし、建設に向けた準備を進めます。

文化・スポーツ振興財団

◆財団法人登別市文化・スポーツ振興財団は、発足以来5年が経過し、これまで、文化・スポーツ施設の維持管理と各種事業を積極的に推進してきました。

◆今後も、施設の維持管理や各種事業が円滑に行われるよう支援します。

表1 各会計予算総括表

(単位:万円)

会計区分	平成13年度		平成12年度 当初予算額	比較増減	伸び率 (%)
	当初予算額	構成比			
一般会計	2,100,000	52.2%	2,070,200	29,800	1.4
特別会計	1,761,840	43.8%	1,676,570	85,270	5.1
国民健康保険特別会計	496,630	12.3%	434,540	62,090	14.3
学校給食事業特別会計	38,600	1.0%	37,690	910	2.4
公共下水道事業特別会計	359,730	8.9%	316,900	42,830	13.5
老人保健特別会計	643,280	16.0%	659,630	△16,250	△2.5
簡易水道事業特別会計	3,460	0.1%	2,970	590	20.6
介護保険特別会計	220,140	5.5%	225,040	△4,900	△2.2
保険事業勘定	220,050	5.5%	224,550	△4,500	△2.0
介護サービス事業勘定	90	0.0%	490	△400	△81.6
水道事業会計	159,407	4.0%	144,750	14,657	10.1
収益的支出	97,854	2.5%	93,999	3,855	4.1
資本的支出	61,553	1.5%	50,751	10,802	21.3
合計	4,021,247	100.0%	3,891,520	129,727	3.3

表2 一般会計歳入

(単位:万円)

費目	平成13年度		平成12年度 当初予算額	比較増減	伸び率 (%)
	当初予算額	構成比			
市税	525,500	25.0%	528,000	△2,500	△0.5
地方交付税	548,000	26.1%	577,200	△29,200	△5.1
使用料及び手数料	69,921	3.3%	68,818	1,103	1.6
国庫支出金	245,245	11.7%	249,776	△4,531	△1.8
道支出金	72,126	3.5%	85,213	△13,087	△15.4
繰入金	161,004	7.7%	156,148	4,856	3.1
諸収入	155,845	7.4%	153,753	2,092	1.4
市債	195,980	9.3%	122,190	73,790	60.4
その他	126,379	6.0%	129,102	△2,723	△2.1
合計	2,100,000	100.0%	2,070,200	29,800	1.4

表3 一般会計歳出

(単位:万円)

費目	平成13年度		平成12年度 当初予算額	比較増減	伸び率 (%)
	当初予算額	構成比			
議会費	17,245	0.8%	17,566	△321	△1.8
総務費	112,921	5.4%	107,135	5,786	5.4
民生費	548,207	26.1%	529,778	18,429	3.5
衛生費	110,963	5.3%	117,322	△6,359	△5.4
労働費	19,476	0.9%	27,873	△8,397	△30.1
農林水産業費	17,724	0.8%	18,322	△598	△3.3
奇工費	81,403	3.9%	73,053	8,350	11.4
土木費	266,299	12.7%	269,059	△2,760	△1.0
消防費	20,230	1.0%	18,892	1,338	7.1
教育費	152,538	7.3%	115,400	37,138	32.2
公債費	241,792	11.5%	224,227	17,565	7.8
給与費	506,202	24.1%	526,583	△20,381	△3.9
予備費	5,000	0.2%	5,000	0	0.0
合計	2,100,000	100.0%	2,070,200	29,800	1.4

全会計総額

一般会計は210億円を計上。対前年度比1・4割、2億9千800万円の増

平成13年度の各会計(一般会計、6特別会計、水道事業会計)の当初予算総額は、402億1千247万円。昨年度の当初予算総額と比較すると3・3割の増となりました。

夢の育つまち③
平成13年度

IT(情報技術)や教育関連、都市基盤整備などに重点を置き、市のまちづくりの特色を生かせる予算編成

まちの予算

内訳としては、一般会計が210億円で、国民健康保険や学校給食事業、公共下水道事業、老人保健、簡易水道事業、介護保険の6特別会計の合計が176億1千840万円となっています。

一般会計を平成12年度の当初予算と比較すると、一般会計が1・4割の増、特別会計が5・1割の増、水道事業会計が10・1割の増となっています。

平成13年度の予算は、長引く景気低

迷の影響を受け、市税収入や地方交付税収入などが伸び悩むといった厳しい財政環境の中、市税や地方交付税、各種交付金・使用料・手数料などの的確な精査見積もりを行うとともに、物件費や人件費の削減を図り、事業についてはその優先度や効果などを勘案して厳しく選択するなど、経費全般について徹底した節減合理化に努めました。

一方、ITや教育関連、市民参画のまちづくりを進めるための仕組みづくり、下水道などの都市基盤整備、公共施設の整備などについては重点を置いた予算配分を行い、長期的な見通しのもと、21世紀に対応し、まちの特色を表すことができる積極的な予算編成としました。

一般会計歳入

昨年度に引き続き財源不足が生じる厳しい財政状況。財政調整基金など、約4億円の取り崩し

主な歳入では、財源の4分の1を構成する市税が対前年度比0・5割減の52億5千500万円、地方交付税については5・1割減の54億8千万円を見込んでいます。

市債は、人と自然のふれあい拠点整備事業充当債や登別温泉小・中学校ネットワーク構築事業充当債などもあり、60・4割の増となっています。

また、財源不足を補うため、財政調整基金積立金と減債基金積立金から4億円を取り崩し、依然として厳しい財政状況に対応します。

一般会計歳出

経費の徹底した節減合理化に努める一方、ITや教育、防災、都市基盤整備などに重点配分

一般会計の主な歳出を性質別にみると、人件費や扶助費など、毎年継続して支出する「経常的経費」が、扶助費や新ごみ処理施設建設の償還開始などによる公債費の増があったものの、人件費などの減により15億8千337万円の0・4割の減。公共施設や道路の整備など、公共事業のために支出する「投資的経費」は26億5千400万円で、人と自然のふれあい拠点整備事業などにより、0・5割の増となっています。

**西陵中学校校舎大規模改造
事業費 1億9,546万円**

昨年度から、西陵中学校校舎の屋上防水工事や内装・外装工事、地震対策として柱や壁、基礎などの補強工事を行いました。今年度は平成12年度の予算を繰り越して、内装・外装工事などを行います。



**まちづくりカタログ発行
経費 544万円**

市はこれまでも、市の予算・決算や取り組んでいる事業の内容について、広報のほりべつなどを通じてお知らせしてきましたが、市民のみなさんがより必要とする情報の発信や、市政情報の共有化をより一層進めるため、平成13年度予算を基に、市がどのような事業に取り組んでいるかを総合的に紹介する『まちづくりカタログ』を広報別冊版として発行し、各家庭にお配りします。

**登別市の情報化の推進
7億4,696万円**

高度情報通信社会への対応を目指し、平成12年度の国の補正予算と平成13年度事業を合わせて、情報通信基盤整備を行います。具体的には、市内全域に光ファイバーを敷設し、市内すべての小中学校や市役所などの各公共施設、商工会議所や日本工学院北海道専門学校など29施設のネットワーク化を進めます。

また、登別中央ショッピングセンター・アーニスの一部を活用し、さまざまな情報を受発信できる機能を備えた『(仮称)地域情報センター』を設置し、子どもを対象にしたや情報技術(IT)の体験スペースや各種ボランティア団体などの活動を支援するスペース、学生や個人がシステム開発などベンチャービジネスにも挑戦できるSOHOブースを設けるなど、情報通信技術の普及促進を図ります。

主な情報化推進事業

- ◎地域イントラネット基盤整備事業費 4億5,357万円
- ◎登別温泉小・中学校ネットワーク構築事業費 1億円
- ◎(仮称)地域情報センター維持管理経費 890万円
- ◎情報通信技術講習事業費 2,394万円

夢の育つまち④
平成13年度

まちの事業

市民と行政の情報共有化、情報通信基盤や公共施設の整備を進めるとともに、教育・防災に重点を置いた事業を選択。

『平成13年度の主な事業の予算額』(4ページ・5ページ)の中で、色文字で記載した事業を紹介します。

**学校給食センター整備事業
費 2,045万円**

学校給食用の食器が使用開始から5年が経過しているため、より衛生的で安全性の高い材質の食器に取り替えるほか、老朽化した食器自動供給装置の更新を行います。



業務の効率化を図ります。また、安全でおいしい牛乳を生徒たちに提供するため、牛乳を一定の温度に保つための保冷库を小・中学校に設置します。

- ◎食器取替事業費 1,502万円
- ◎食器自動供給装置設置事業費 375万円
- ◎牛乳保冷库購入費 168万円

**サイレン遠隔吹鳴装置設置
事業費 6,624万円**

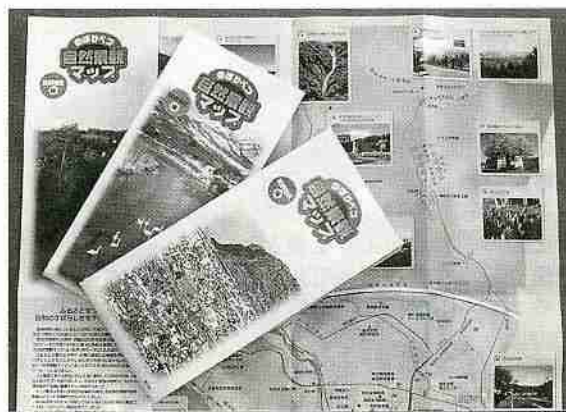
災害時に消防職員や消防団員などの迅速な召集を行い、初動体制を確立するとともに、地域住民に対して災害の情報を音声やサイレンなどで伝え、避難や救助活動を促進することで被害を最小限に食い止め、市民の安全確保の促進を図ります。

『サイレン遠隔吹鳴装置』は、2カ年計画で市内各地域の公共施設など39カ所に設置を予定し、今年度は、消防各支署など21カ所に設置します。

**市営住宅(幌別東団地)景観
改善事業費 2億3,840万円**

平成10年度から、市営住宅幌別東団地(4階建て・13棟)の屋根のふき替えや外壁補修工事、景観に配慮した外壁塗装などの大規模改修を進め5棟が完了しました。今年度は、平成12年度の予算を繰り越して残り8棟の改修工事や外壁塗装、13棟の物置建て替え工事、植栽などを行い、9月末の完成を予定しています。





▲登別・幌別・鷺別3地区の『のぼりべつ自然景観マップ』

幼稚園の在り方について 意見交換

～市立幼稚園についての説明会～

2月13日(火)から16日(金)までの4日間、市内4地区で市立幼稚園の廃園についての説明会が行われました。

市立幼稚園は、多様化し増大する市民ニーズにこたえた計画的、効率的なまちづくりを進めるため、行政改革の取り組みの中で、民間にゆだねていく事業と位置づけられ検討課題となっていました。

市から市立幼稚園の現状や廃園方針の経緯経過、市の支援対策などが説明された後、園児をもつお母さんたちなどから、幼稚園教育の在り方や経済的な問題、廃園の時期や方法などの意見が出されましたが、市はこれらの意見を検討し、今後の対応を進めていきます。



雪景色の中で体力づくり ～第19回歩くスキー教室～

2月18日(日)、カルルス温泉サンライバスキー場で文化・スポーツ振興財団主催による『歩くスキー教室』が開かれました。

この教室は歩くスキーの普及と冬季の体力づくりのため、毎年開かれているものです。

この日は天候に恵まれ、スタート時の気温も2度と、スキーで歩くには絶好のコンディション。登別市スキー連盟指導員に導かれた23人の参加者は、列をつくり、ゆっくりとしたペースで、木々の間からこぼれる光が美しいカルルスの林道など約8kmの行程を楽しんでいました。



3月1日(木)、市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会の第5回実行委員会が開催されました。この実行委員会は、市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会活動の締めくくりとして開かれたもので、『自然イベント』『自然景観』『ふれあい』『まなび』『広報・ツール』『財務・会計』の各部会から事業報告や決算報告などが行われました。

このうち自然景観部会からは、登別・幌別・鷺別3地区の『のぼりべつ自然景観マップ』の完成が報告されました。この自然景観マップは、20世紀最後の年の登別の豊かな自然や自然と調和した景観を発掘し、21世紀へのメッセージとして残そうと作られたものです。写真がふんだんに使われたこのマップは、景観ポイントのほか、各地区お勧めの景観探索コースが紹介され、所要時間や行程の案内も記載されています。この自然景観マップは、登別・幌別・鷺別のそれぞれの地区へ全戸配布されたほか、市役所・各支所や商工会議所で希望者に無料で配布されています。また、今後は掲載された写真を使ったパネル展やマップを使った散策会も計画されています。

市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会は、これまでの活動成果を今後のまちづくりに生かすため、新組織に衣替えする提案が全会一致で承認され、新たな組織づくりを検討することになりました。



▲3月1日に開かれた『第5回実行委員会』

1年間の活動成果を今後 のまちづくりへ

市制施行30周年・西暦2000
年市民実行委員会へ

全国から452点の作品が応募

～『第1回鬼の童話コンテスト』結果発表～

2月16日(金)、登別温泉町のホテル内で鬼サミットののぼりべつ2000実行委員会主催の『第1回鬼の童話コンテスト』の結果発表が行われました。

このコンテストは、鬼のまち登別のPRと登別から新たな文化を創造し、全国へ発信する目的で行われ、全国各地から452点の応募がありました。今回は最優秀賞の該当者がありませんでしたが、優秀賞3点、奨励賞1点、佳作10点が発表され、札幌在住の童話作家の柴村紀代審査委員長から「今回は鬼の既成イメージを破るユニークな作品を期待しています」と講評がありました。佳作以上の作品は小冊子にして小・中学校や図書館に配布されるほか、優秀賞と奨励賞の作品は市のホームページに掲載されています。



(<http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp>)

21世紀の『のぼりべつ』の姿



～登別市まちづくりアクションプラン～

2月8日(木)、『登別市まちづくりアクションプラン』を策定するための第6回市民会議が市民会館で開催されました。

まちづくりアクションプランとは、土地利用や交通施設、公共施設の在り方を盛り込んだ『都市計画マスタープラン』、まち並みや自然景観の形成などの方向性を示した『景観形成基本計画』、緑の保全や緑化推進、公園や広場の整備に関する指針となる『緑の基本計画』の3つの計画を総称したものです。

同プランは、将来のまちづくりについて多くの市民の参画を得ながら平成14年度の策定を目指しているもので、今年度最後の市民会議で素案のたたき台が示され、3月末に全体構想の素案がまとまりました。平成13年度は、この全体構想の修正や地区別構想、景観・緑の素案づくりを行う予定です。素案の概要については、今後の広報ののぼりべつなどでお知らせします。

心を込めて手作りびな

～ひな人形づくり～

2月24日(土)、文化伝承館でひな人形づくりが行われました。このひな人形づくりは、郷土資料館体験学習の一環として毎年2月に行われているものです。

30人の参加者は、郷土資料館ボランティアSLGの指導を受けながら、和紙などを使いおびなやめびな、ぼんぼりを作り、竹の台座に飾り付けました。

参加した青葉小学校5年生の谷内山綺香さんは「和紙の着物を着せるところが難しかったです。お母さんに見せてから家の玄関に飾ります」と出来上がったひな人形を見つめながら話していました。



4年間の思い出を胸に

～登別市老人大学卒業式・修了式～

2月22日(木)、市民会館で、登別市老人大学の平成12年度卒業式・修了式が行われました。

老人大学は、60歳以上の市民が高齢者相互の親ぶくを図り、生きがいのある人生観を持つことを目的にさまざまな知識や教養を身に付け、地域社会に役立ててもらおうと行われているものです。

今年の卒業生54人(男性12人、女性42人)は、一人ひとり同大学学長の青木宏司教育長から卒業証書を感慨深げに受け取っていました。



ここから登別の未来が!

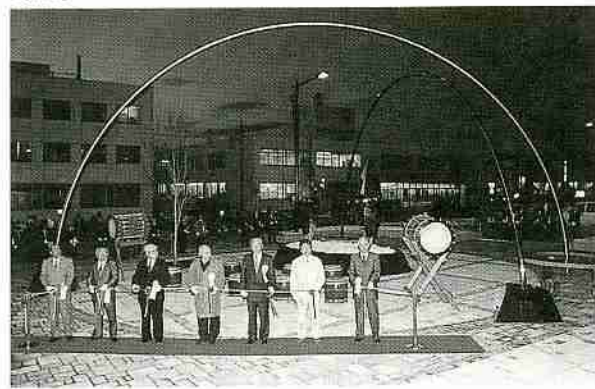
～JR幌別駅前広場整備完成記念式典～

3月13日(火)、市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会と登別市商店街近代化推進協議会の主催による「JR幌別駅前広場整備完成記念式典」が同広場で行われ、関係者や市民約300人が新しい広場の完成を祝いました。

同広場の整備事業は、平成3年から行われてきた中央町地区の商店街近代化事業を締めくくる事業で、約5,000平方メートルの広場には屋根付きのバス乗降場やタクシー乗り場、駐輪場、装飾された電話ボックスなどが設置されました。

また、中央には交差する2本のステンレス製のアーチや2個の紡錘形の卵、一本の樹などをあしらい、未来が始まる広場を表現した伊藤隆道さん(東京芸術大学教授)制作のモニュメント「未来・はじまる」が設けられています。

来賓祝辞に続いて行われた点灯式では、未来を象徴する虹をイメージしたアーチと卵が一斉にきらきらと輝き、集まった市民からため息とともに「わー、きれい」などと新しい広場の完成を喜ぶ声があがっていました。



元気

宅配便



今月のアドバイザー

さとうあけみ 保健婦
佐藤朱美

結核が、かつて「国民病」と恐れられていた時代をご存知ですか。そして今、結核患者が増えていることも。

日本で結核が猛威をふるい、多くの人が亡くなったのは、大正から昭和初期にかけてでした。その後いろいろな対策がとられ、薬の開発が進んだことで、り患する人は急速に減り「国民病」と恐れられることはなくなりました。

ところが、平成9年を境に再び増えてきています。結核は過去のものと思われ、警戒心を持たない風潮が広がったためと思われまます。

そこで今号では、みなさんに結核の知識を深めていただくと思います。

結核は、結核患者のせきやくしゃみで結核菌が空気中を飛び、人の肺に吸い込まれることよって感染します。結核菌を吸い込んでも発病する人とならない人がいます。お子

油断大敵！結核患者が増えています



結核予防の一環として行われるツベルクリン反応検査

さんや高齢者、糖尿病の方や人工透析をしている方、ステロイド剤を飲んでいる方、偏った食生活をしている方など、抵抗力や免疫力が弱まっている方は要注意です。

結核は、初めのうちは風邪とよく似た症状ですが、いつまでもせきやたんが止まらず、微熱が続きます。そのうちだるさや寝汗、胸の痛みといった症状も出てきます。困ったことに、風邪と似ているため症状が進んでから見つかる例が少なくありません。

しかし、過度の心配は不要です。今は、とても良い薬があるので、きちんと治療を受ければ大丈夫です。大切なことは、風邪の症状が長引く場合、きちんと受診することです。そして、何よりも普段の健康管理が一番大切です。

また、赤ちゃんは、生後3カ月を過ぎたらBCGの接種を受けさせましょう。

人が輝き まちがとぎめく

仲間たち Group



登別天元会

「登別天元会」は、昭和25年に登別・登別温泉地区の囲碁好きの方が中心になり結成された囲碁のサークルです。会員は16人。月2回、婦人センターに集い、囲碁を楽しんでいるほか、年に一度囲碁大会の開催を兼ね登別温泉に宿泊し、親交を温めています。

結成時から参加し、現在会長を務めている高見芳雄さんは、「囲碁は年齢や腕の善し悪しにかかわらず楽しめ、頭の体操にもとても良いですよ。それから、囲碁は対局するもの。たくさん素晴らしい仲間との出会いも与えてくれます。会では、みなさん仲が良く、和気あいあいと囲碁を楽しんでいます。現在、会では囲碁をもっと広めようと会員を募っています。女性の方や子どもたちにも入会してほしいですね。特に子どもたちにとって囲碁は、おこづかいを使わず、マナーも学べるので、

碁石を握りながら、仲間とゆったりと過ごす時間は、掛け替えのないものです



▲年齢や腕の善し悪しにかかわらず楽しめるのも、囲碁の魅力です

打って付け。きっとテレビゲームでは味わうことのできない、人間相手の魅力、飽きのこない魅力を発見できると思いますよ」と会の様子や囲碁の魅力などを話してくれました。

現在、事務局を担当している秋山繁雄さんは、入会して3年目。「ほかの碁会所にも顔を出していましたが、この会の和やかな雰囲気が入り、仲間に入れていただきました。家では囲碁の本を片手に定石などを学んだりしていますが、いざ人間を相手にすると定石には収まりきれない奥深さを感じますね。何かと慌ただしい世の中ですが、碁石を握りながら、仲間とゆったりと過ごす時間は、掛け替えのないものです」と秋山さんは囲碁の魅力を話してくれました。

入会を希望される方は、事務局の秋山さん(☎0539)までどうぞ。

楽しかったこと、悲しかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクス、電子メールでお寄せください。なお、個人や団体への中傷、営利を目的としたお話はご遠慮ください。

企画広報室 中央町6-11
 電話 051 122
 FAX 051 108
 Eメール: pr@city.noboribetsu.hokkaido.jp

大切にしたいですね 七夕の風習

広報のほりべつ3月1日号の同欄に、登別市内の七夕の習慣についてのご意見が載っていましたので、ちよこいと言わせていただきます。

毎年7月7日の七夕には、子どもたちが「ことしや豊年大いに祝おう、ろうそく出せだせよ…」と歌いながら、ご近所の家々を回ります。この歌の起源は青森県のねぶたまつりで歌われていたもの、という説があるそうです。

また、かつて子どもたちは、ろうそくをもらっていたのですが、近年ろうそくを置いてはお宅が少なくなっただけ、お菓子をあげるのが一般的になっているようです。

埼玉県に住んでいる息子は「登別のような七夕の風習が埼玉県にはないので子どもたちはかわいそうだ」と言いながら、楽しかった子どもころの七夕を懐かしがっています。

息子が小学校に通っていたころは、七夕の日に学校で「ことしや豊年…」の歌を上級生から下級生に伝えられ、家々を回る時のマナーも教えられたそうです。

ふるさとの文化遺産

登別市指定文化財 円空作聖観音像



観音山聖光院



【所在地】

登別市登別温泉町119番地1
観音山聖光院

観音山聖光院には、美濃国（現在の岐阜県）の僧・円空上人が鋳一丁で彫ったといわれる聖観音像（高さ33寸）が安置されています。

この像は、登別温泉町に住んでいた故・石川修次さんが、昭和32年、郷里の名古屋市にある荒子観音寺を訪れた際、同寺の住職が石川さんの教え子だったことから譲り受け、昭和40年に観音山聖光院に寄進されたものです。

約300年前の作とされるこの像は、平成5年に登別市指定文化財に指定されました。

▶問い合わせ 社会教育課
 (☎1129)

七夕を楽しむ子どもたちの目の輝きや笑顔を見るのを私は楽しみにしています。浴衣を着て来るかわいい女の子やいつの間にか大きくなった知り合いの子どもなど、息子たちが成長した今では、七夕でなければ自宅を訪れてくれるかわいい子どもたちに出会うことはできません。

古くからこの地域に伝わる年中行事「七夕」。願いごとを書いた短冊を笹に結び軒先に飾る。そして浴衣を着た子どもたちが夕方から家々を回る。そんな年に一度の子どものための楽しみを、私はこれからも大切にしていきたいと思っています。

（常盤町 主婦）



くまだともこ 熊田友子さん(26歳)

伊達市農業協同組合Aコープのほりべつ店勤務
 お客様が安心して買い物ができるよう心掛けています

「お客様から声を掛けられたり、こちらから掛けたりと、何気ない対話が楽しいですね」と客とのふれあいを大切にしている熊田さんは、伊達市農業協同組合Aコープのほりべつ店で商品の管理や発注を担当して3年になります。

「お客様が買い物しやすいように品物の展示を工夫したり、新鮮な商品をはじめ、お客様のニーズに合った商品を店頭で置くよう常に心掛けています。お客様が安心して買い物をし、喜んでいただくのが何よりです」と熊田さん。

「休みには友達とカルルスやニセコなどでスノーボードを楽しんでいます。友達は大会に出ていますが、私はまだまだです」とやさしい笑顔で話してくれました。



赴任当初は、生活になじめず、何度も帰国したと思います

インドの南西、赤道に近いインド洋上に浮かぶ一千190の島々からなる群島国家モルディブ共和国。

「学生時代は卓球に明け暮れたので、社会に出る前に青年海外協力隊員として、開発途上国に身を置き経験を積みたかった」と決意し、モルディブ共和国に派遣された菅野さんを待っていたのは熱帯性気候の暑さ。

「住宅にはもちろんエアコンなどありませんし、窓のない蒸し暑い部屋で毎晩寝ることがつらかったです。カレー風の料理が中心の食生活もなかなかなじみませんでした。赴任当初は、ストレスがたまり、何度も日本に帰りたくなくなりました」。

3カ月で卓球が盛んになり、やりがいを感じました

菅野さんは、首都のマレーで卓球のジュニアナショナルチームを指導した後、ガン島のスポーツセンターで子どもから大人までを対象にスポーツ指導。最後の赴任地となったエイダフシー島の学校では首都から2台の卓球台を取り寄せ、子どもたちに卓球を初歩から指導しました。

「モルディブには、学校の授業



▲菅野さんが卓球の指導をした現地の方たちと

に体育がありません。指導者を養成するため、まず先生に卓球を覚えてもらいました。3カ月たったころには、熱心に取り組む子が増え、卓球が盛んになりました。やりがいを感じましたね」。

帰国の日、イスラム教を熱心に信仰する住民たちが断食をする時期。菅野さんは、一人静まり返った町を後にしました。

「現地の方には親しくしていただったので、見送られたら別れがつらくて、きつと涙が出てしまっただけです。初めて国外で生活し、いろいろな方との出会いを通して、外国人・日本人を問わず、考え方の違いを受け入れる大きな気持ちを持つ大切さを学びました」と話す菅野さんは、貴重な体験をこれからの人生に生かしていきます。



KIRARI

すげ の ゆき かず

菅野薫一さん(柏木町)

若者が持っている技術や知識を生かし、開発途上国の国づくりや人づくりに協力するため、国際協力事業団が昭和49年から行っている青年海外協力隊事業。

その青年海外協力隊員として、平成10年から2年間にわたり、モルディブ共和国で卓球などの指導をしてきた菅野さんに、体験談などを聞きました。

人の考え方の違いを受け入れる大きな気持ちを持ちたい

昭和49年10月、登別市生まれ。26歳。

西陵中学校で卓球を始め、3年時に中体連の団体戦で全道優勝。中学卒業後、札幌光星高校へ卓球留学。札幌大学卒業。平成12年12月モルディブ共和国から帰国。現在就職活動中。



情報あらかると

いきいき推進事業補助制度をご活用ください

市は、総合計画で描いた「ふれあい交流都市」の実現を目指して、歴史や文化、自然、産業などを生かした個性豊かなまちづくりを市民のみなさんとともに進めるため、市民団体を対象に財政支援を行っています。

- ▼補助対象事業 まちづくりを積極的に推進する市民団体が、平成14年3月31日までに新たに取り組みを始める事業（団体の運営補助を除く）
- ▼対象となる事業例
 - ◎地場産業の振興
 - ◎人材育成
 - ◎自然・環境との調和
 - ◎地域イメージの向上
 - ◎地域情報化の推進

個性豊かなまちづくりに関する事業	◎地場産業の振興 ◎人材育成 ◎自然・環境との調和 ◎地域イメージの向上 ◎地域情報化の推進
ふれいあ交流推進に関する事業	◎教育・生活・文化の振興 ◎地域間交流の推進 ◎国際交流の推進 ◎コミュニティー活動の推進 ◎スポーツ、レクリエーションの推進

※経費によっては補助対象にならない場合がありますので、詳しくは

お問い合わせください。

- ▼補助限度額 30万円（対象事業費の2分の1の範囲内。ただし、ほかからの補助を受ける場合は補助額が変わります）
- ▼申込方法 事業着手2カ月前までに、市役所1階総合案内、各支所、市民会館に備え付けの申請用紙に必要事項を記入の上、お申し込みください。
- ▼申し込み 企画広報室（☎1122）

学校の体育館を開放します

教育委員会は、地域のスポーツ活動を促進するため、市内小・中学校の体育館を開放します。

- ▼開放指定校 登別温泉中学校、登別中学校、登別小学校、幌別東小学校、幌別小学校、幌別西小学校（新規指定）、青葉小学校、富岸小学校（新規指定）、若草小学校、鷺別小学校
- ▼開放期間 平成13年5月14日（月）～平成14年2月28日（木）
- ▼利用時間 18時～21時
- ▼対象 市内に居住または通勤する方を含む10人以上の団体
- ▼利用条件

5月の粗大ごみ収集

粗大ごみの収集は、地域ごとに決められた年2回の収集時期に、電話の申し込みにより行います。

粗大ごみを出すときは（1回につき5品まで）、1枚160円のごみ処理券を購入の上、1品ごとにごみ処理券を張ってください。

▶申込方法 収集日初日の2週間前から収集日初日まで（土・日曜日、祝日を除く）の9時～17時に電話で環境資源課へお申し込みください

5月の粗大ごみの収集日・地区		
地区名	収集日	申込期間 (土・日曜日、祝日を除く)
片倉町・新栄町・札内町・来馬町・富浦町（1～5丁目を除く）	5月7日（月）～5月12日（土）	4月23日（月）～5月7日（月）
美園町1～3丁目	5月14日（月）～5月19日（土）	5月1日（火）～5月14日（月）
富岸町	5月21日（月）～5月26日（土）	5月7日（月）～5月21日（月）
若草町3～4丁目	5月28日（月）～6月2日（土）	5月14日（月）～5月28日（月）

※このほかの地区の収集日については、「家庭ごみ収集カレンダー」に掲載しています。また、今後の『広報のほりべつ』でも紹介していきます。

申し込み 問い合わせ 環境資源課（☎2958）

学校給食費を値上げします

市はこれまで、小・中学生の児童

- スポーツ安全保険などに加入していること
- 興行、その他私的営利を目的にしないこと
- ▼申込方法 4月17日（木）までに社会教育課（市民会館内）または総合体育館に備え付けの申請書に必要事項を記入し、お申し込みください
- ※申し込みは、原則1団体1校とさせていただきます。
- ▼申し込み 社会教育課（☎1129）または総合体育館（☎5552）

生徒をもつご家庭に負担をお掛けしないよう、学校給食費の据え置きに努めてきましたが、国の制度改正により学校給食用米穀と学校給食用牛乳の購入に対する補助金の措置が廃止されたこと、また、給食内容の一層の充実を図るため、4月1日から小・中学校の給食費をそれぞれ100円値上げします。

今後とも経営の効率化と給食サービス向上に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

- ▼改定の内容
 - 小学校 月額3千500円（改定前月額3千400円）
 - 中学校 月額4千200円（改定前月額4千100円）
- ▼問い合わせ 給食センター（☎2723）

総合体育館『多目的ルーム』をご利用ください

教育委員会は、総合体育館の『トレーニングルーム』をより多くの方に利用いただけるよう『多目的ルーム』に改修しました。

4月1日(日)から使用できますので、スポーツやダンスなどの練習に、ぜひご利用ください。

▼使用料

○個人使用料 大人100円、高校生50円、中学生以下30円

○専用使用料

時間	使用料	暖房料
9時～12時	400円 (80円)	90円
13時～17時	600円 (110円)	120円
18時～21時	500円 (80円)	90円
全日	1,400円 (290円)	310円

※()は、減額使用料(サークル活動などで利用する場合)に適用。暖房料は11月～4月。

▼申し込み 総合体育館

(☎5552)

大空を泳ぐこいのぼりをご覧ください

5月5日の『こどもの日』を前に、郷土資料館では約60匹のこいのぼりを揚げます。春風を受けながら大空を泳ぐ姿を、ぜひご覧ください。

なお、郷土資料館内では、昭和初期の五月人形を展示しています。

※五月人形をご覧になる場合は、入館料がかかります。

▼期間 4月5日(木)～5月5日(土)

▼問い合わせ 郷土資料館 (☎1339)

出張税務相談を開催します

不動産の譲渡、相続・贈与の税金、パートで働いたときの税金、住宅を取得した場合の還付金など、税金に関する相談を、札幌国税局税務相談室苫小牧分室税務相談官が無料でお受けします。

▼日時 4月12日(木) 10時～15時

▼場所 鶴別公民館

▼問い合わせ 札幌国税局税務相談室苫小牧分室 (☎01446611)

「初心者カメラ(写真)撮影教室」参加者募集

▼文化・スポーツ振興財団主催

▼日時 5月19日(土)・26日(土) (全2回) 10時～12時

▼場所 文化伝承館(郷土資料館横)

▼対象・定員 市内に居住または通勤する方・20人(申込順)

▼内容 基本的な写真の撮影方法(講義と実技)、参加者が撮影した写真を使ったワンポイントアドバイス

▼受講料 200円

▼講師 田中佐一郎さん(室蘭民報社取締役・編集相談役)

春であみねでスポーツしませんか

川上公園野球場と岡志別の森運動公園がオープンします。みなさんの健康づくりに、ぜひご利用ください。



施設利用の申込み・問い合わせ

岡志別の森運動公園管理事務所(☎2525)

施設区分	利用期間	利用時間	
川上公園野球場	5月1日(火)～10月31日(木)	5月……………6:00～18:00 6月～9月…5:00～19:00 10月……………6:00～17:00	
	岡志別の森運動公園	野球場	5月……………6:00～18:00 6月～9月…5:00～19:00 10月……………6:00～17:00
		テニスコート	4月……………9:00～17:00 5月～10月…6:00～21:00
バドミントンコート	5月1日(火)～10月31日(木)	5月……………7:00～18:00 6月～9月…7:00～19:00 10月……………7:00～17:00	

※各施設は有料です。なお、施設の利用状況により、利用期間や利用時間を変更することがありますので、ご了承ください。

▼持ち物 カメラ、撮影用カラースリム(T.S.O.100・24枚または36枚撮り2本程度)

▼その他 参加者は、写真のモデルとしてお子さんや友人などを同伴してもかまいません

▼申込方法 4月9日(月)から17日(火)まで(土・日曜日を除く)の9時から17時までに、電話でお申し込みください

※受講料は4月17日(火)までに持参してください。

▼申し込み 文化・スポーツ振興財団(☎1116)

消費者契約法が施行されました

消費者と事業者との契約トラブル

を解決するための新しいルールを定めた消費者契約法が、4月1日に施行されました。

◎消費者契約法のポイント

●消費者が事業者と締結したすべての契約(労働契約を除く)を対象にしています。

●消費者は、事業者の不適切な行為(うその説明など)により誤認・困惑して結んだ契約は、取り消すことができます。

●消費者が事業者と結んだ契約において、消費者の利益を不当に害する条項の一部または全部が無効になります。

※詳しくはお問い合わせください。

▼問い合わせ 北海道立消費生活センター(☎011-271-0999)

平成13年度 自衛隊幹部候補生募集

採用予定数

区分		男子	女子
陸上自衛隊	一般幹部候補生	約100人	約10人
海上自衛隊	一般幹部候補生	約80人	約5人
	一般 飛行		
	技術幹部候補生	約20人	
航空自衛隊	一般幹部候補生	約50人	約5人
	一般 飛行		
医科・歯科・薬剤幹部候補生		陸・海・空で約17人	

▼応募資格 平成14年4月1日現在

で、次のいずれかに該当する方

- 22歳以上26歳未満で大学卒業程度の学力を有する方
- 28歳未満で大学院修士課程を修了（見込みを含む）した方
- 医科・歯科・薬剤幹部候補生は専門の大学を卒業（見込みを含む）した方（薬学修士取得者は28歳未満）

▼受付期間 4月9日（月）～5月11日（金）

▼試験日

- 一次試験：5月26日（土）（飛行要員については5月27日（日）に適正試験があります）

● 二次試験：6月26日（火）～28日（木）のうち指定する日

▼問い合わせ 室蘭募集事務所（☎④9533）または総務課（☎⑤1130）

室蘭工業大学公開講座

『中国語文法入門講座』

受講生を募集します

▼月日 5月16日（水）から8月1日（水）までの毎週水曜日・全12回

▼時間 18時30分～20時

▼場所 室蘭工業大学

▼対象 中国語の学習経験がある中学生以上の方

▼定員 20人（申込順）

▼講師 富士川計吉さん（室蘭工業大学教授）

▼受講料 9千500円（受講料、教科書代。なお、教科書をお持ちの方は7千800円のみ）

▼申込方法 4月9日（月）から5月10日（木）までに、室蘭工業大学地域連携推進室に備え付けの申込用紙に必要事項を記入の上、受講料を添えてお申し込みください

▼申し込み 室蘭工業大学地域連携推進室（室蘭市水元町27-11・☎④5023）

の時期になりました。手続きは早めに、期間内に行いましょう。

▼手続き期間 4月2日（月）～5月21日（日）

▼申告・納付先 最寄りの銀行・郵便局または室蘭労働基準監督署

▼問い合わせ 室蘭労働基準監督署（☎⑤6131）

技能士を目指すみなさんへ
平成13年度前期
技能検定国家試験のお知らせ

技能検定は、産業界で活躍する技能者の方の技能と社会的地位の向上を図るため、職業能力開発促進法に基づいて実施されます。合格者には「技能士」の称号が与えられます。

▼受検申請受付期間 4月2日（月）～13日（金）

▼実技試験期間 6月12日（火）～9月9日（日）

▼学科試験日 8月26日（日）、9月2日（日）、5日（水）、9日（日）

▼申請・問い合わせ 胆振地方技能訓練協会（室蘭市幸町9-11、胆振支庁商工労働観光課内 ☎②9131）

『登山教室』を開催します
～登別山岳連盟主催～

▼月日 4月25日（水）

▼時間 18時30分～21時

▼場所 登別市青少年会館（市立図書館横）

▼対象 中・高年齢の方、登山経験

の少ない方

▼定員 20人（申込順）

▼内容 山登りの歩き方や服装、水分補給などの講義

▼参加料 無料

▼申し込み 4月23日（月）までに福澤さん（☎⑤5851）

のぼりべつ物産会のホームページをご覧ください

市内の特産品などを広く紹介している「のぼりべつ物産会」は、ホームページを開設しました。



このホームページでは、12社が湯の華や海産物、木製品、菓子など、幅広く地場産品を紹介していますので、ぜひご覧ください。

▼問い合わせ のぼりべつ物産会（登別商工会議所内 ☎④4111、ホームページ <http://www.nobori-bei-hussan.com/>）

4/6（金）～15（日）

春の全国交通安全運動

- ・ 子ども（特に新入学児童・園児）と高齢者の交通事故に注意する
- ・ スピードの出し過ぎなど無謀運転をしない
- ・ シートベルトは必ず着用する
- ・ 6歳未満の子どものチャイルドシートの装着を



▲郷土資料館



▲淡い緑色の花を咲かせる桜「御衣黄」



▲流鏝馬体験



郷土資料館開館20周年記念
御衣黄まつり

淡い緑色の花を咲かせる珍しい桜「御衣黄」。

郷土資料館では、開館20周年を記念し、この「御衣黄」の開花にあわせて「御衣黄まつり」を開催します。

当日は、郷土資料館と文化伝承館を無料開放しますので、春の一日を楽しんでみませんか。

▼日時 5月26日(土) 10時～14時

▼場所 郷土資料館(片倉町6丁目27)

▼内容 流鏝馬体験、野点、手打ちそばの試食(先着200食)、昔の遊びコーナー(竹とんぼ作りや竹馬遊びなど)、初心者カメラ(写真)撮影教室

※初心者カメラ(写真)撮影教室は、事前の申し込みが必要です。詳細は20ページ「情報あらかると」をご覧ください。

※来館者には、「御衣黄絵はがき」をプレゼントします。

▼問い合わせ 郷土資料館

(☎011-3333)

と な り ま ち ・ ホ ッ ト ラ ン

白老町

白老屋根のない博物館PR事業
「しらおい・川物語」開催中

白老町では、自然、歴史、文化を生かし、まち全体を博物館とする屋根のない博物館事業を展開しています。その事業の一環として、町内にある53の『河川』と20余りの『滝』の歴史、文化、自然を写真やビデオなどで紹介しています。

- ▶期間 4月15日(日)まで(月曜日は休館)
- ▶開館時間 9時30分～16時30分
- ▶場所 仙台藩白老元陣屋資料館
- ▶入館料 一般260円、小・中学生130円
- ▶問い合わせ 仙台藩白老元陣屋資料館 (☎011442666)

室蘭市

橋のたもとでナイスショット!
白鳥大橋パークゴルフ場オープン

大橋とヨットを眺めながら、そう快なプレーを楽しみませんか。近くには、白鳥大橋記念館や水族館、マリーナ、臨海公園もあり、春の一日を満喫できます。

- ▶期間 4月21日(土)～10月31日(水)
- ▶時間 7時～21時(火曜日は14時から)
- ▶料金 大人500円、65歳以上300円、高校生以下200円
- ※お得な回数券もあります。また用具の貸し出しもしています(有料)。
- ▶問い合わせ 白鳥大橋パークゴルフ場 (☎0115266)

伊達市

劇団四季公演『ユタと不思議な仲間たち』へお越しく下さい

懐かしい日本の風景の中で、生きることのすばらしさをそっと教えてくれるミュージカルです。ぜひお越しく下さい。

- ▶日時 5月13日(日) 18時30分開演
- ▶場所 だて歴史の杜カルチャーセンター大ホール
- ▶入場料 S席8,400円、A席5,250円、B席3,150円
- ▶チケット取扱先 エルム多米楽器室蘭店、JR北海道みどりの窓口ほか
- ▶問い合わせ 伊達メセナ協会事務局 (☎01421515)